

認知症および認知症のケアについて

研修資料 兼 マニュアル

SAMPLE

資料作成 (株) イー・ケア・サポート

協 力 アイ・エム・エフ研究センター

認知症および認知症高齢者のケアについて

0.はじめに

ここでは認知症高齢者へのより適切なケアとはどのようなものかを述べる。そのために、まず認知症とは何か、なぜ起こるのか、認知症により生じる問題など認知症そのものについて概観し、続いてより適切なケアにつながる高齢者の心理的側面を尊重したケアについて考えることとする。

■ 認知症について

1. 認知症とは？

認知症とは一般に「一旦は正常に発達した知能が、その後起こった慢性の脳機能障害のために異常に低下してしまった状態」を指し、知能には「部分的ではなく、包括的な低下が認められる」ような「病気」として定義されている。つまり右図の破線で示したように、最初は一般的な発達に倣い知能は発達したものの後に一貫して低下している。いったん低下しても回復している a の線や一般的な発達とは異なった発達の方法をした b の線をたどったような場合は似たような状態を示しても「認知症」とは呼ばない。

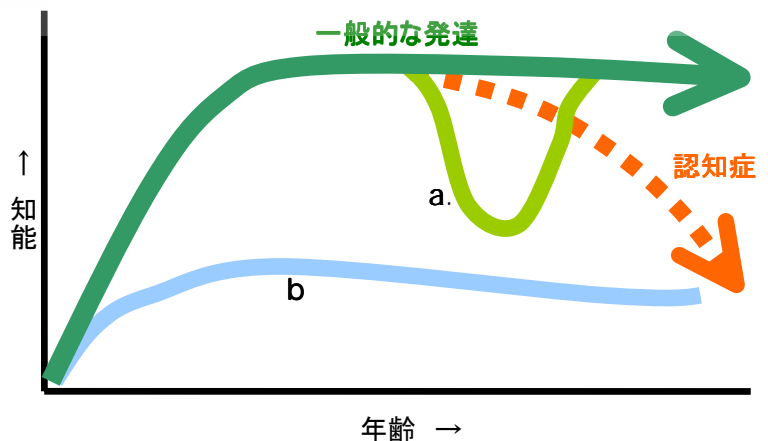


図 1. 知能の発達と認知症 (概念図)

2. 認知症の診断

現在、認知症の診断基準は次のようになっている。

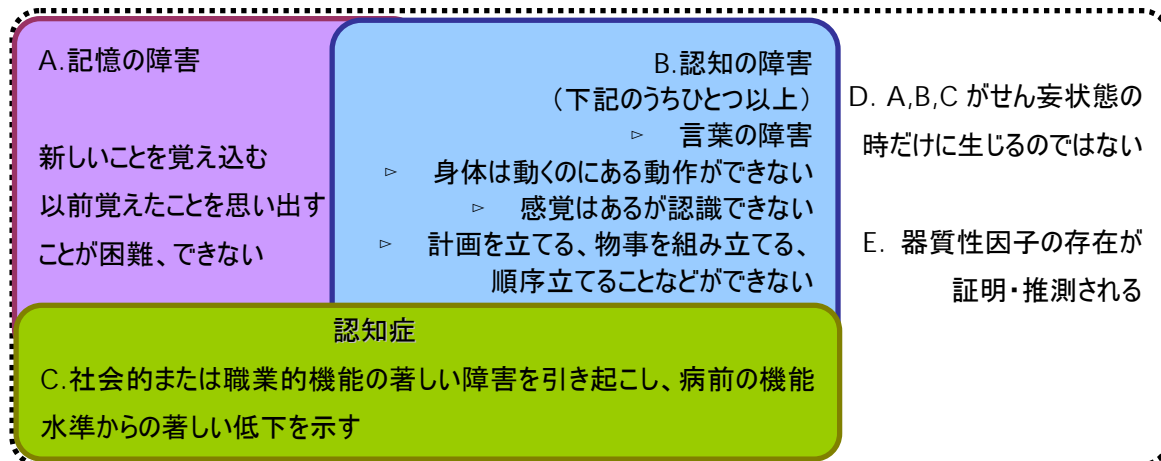


図 2. 認知症の診断基準

上記のように認知症は障害としては記憶と認知の障害がある。しかし、加齢により誰にでも似たような状態が見られることがあるが、その場合には C が基準となる。また、図 1 でも触れたように一時的な状態では認知症とは言えず、さらに器質性因子(脳における形状的な変化)が認められたり推測されたりして始めて認知症と判断される。また、せん妄など意識障害による知的機能の障害は認知症とは区別される。つまり、せん妄が一時的な意識状態の低下を伴っている